

8月8日（土）のヒューマンシネマで上映される作品のほかにも、人権について考えるきっかけになる作品がたくさんあります。

あたたかい気持ちになれたり、考えるきっかけになったり、新たな視点に気付いたりできるものを一部紹介します。

市立図書館で借りられる本もあるので、ぜひ一度手に取ってみてください。

詩

「私と小鳥と鈴と」
「こだまでしょうか」

作／金子みすゞ

教科書やテレビのCMでもなじみがあるかもしれません。

金子みすゞさんの詩には何気ない日常が描かれた、あたたかい気持ちになれる作品が多くあります。

小説

『さまよう刃』

著／東野圭吾

少年犯罪と被害者遺族の心情が描かれ、正義とは何か、矛盾や葛藤とともに考えさせられる作品。

ドラマ化・映画化もされました。

『護られなかった者たちへ』

著／中山七里

東日本大震災から数年、人格者と言われる人物が被害者となる事件が起こる。
関係者それぞれに、被災や生活保護の受給など様々な事情や過去が。
映画化されました。

漫画

『聲の形』

作／大今良時

聴覚障がいのある同級生へのいじめがきっかけで、自分もいじめの標的になっていく。
高校生になって再会した二人と周囲の人々の物語。
アニメ映画化もされました。

『放課後カルテ』

作／日生マユ

小学校の保健室が舞台の医療漫画。
日々子どもたちを観察し、子ども自身も気づかない病気のサインを見つけて救う。
ドラマ化されました。

『ペコロスの母に会いに行く』

作／岡野雄一

忘れていく記憶。でも消えない愛情。
認知症を患う母との日々をあたたかい視点で描いた、心に染みる笑いと涙の物語。
映画化されました。

『リアル』

作／井上雄彦

病気や事故でそれまでの生活が一変した主人公たちが、車いすバスケットと出会ったことで、自分の人生と向き合い、葛藤し、成長していく物語。
現在も連載中です。

映画

『かがみの孤城』

鏡に吸い込まれた先の孤城で出会った、学校に通えない中学生7人は、願いの叶う鍵を探すうちにそれぞれの抱えた事情を知る。
原作もありますがアニメ映画になっているので、ご家族で見るのにおすすめ。
一歩踏み出そうと思える作品です。

『あんのこと』

虐待を受けて育った少女は薬物の使用で逮捕されたが、手を差し伸べてくれた刑事たちに心を開き更生の道を歩む。
感染症による孤立や、縁を切れない親との関係など、社会問題が多く描かれ、どこかの誰かの話ではない、と考えさせられます。

『最強のふたり』

実話が元になった映画。
障がいのある男性と、意図せず介護をすることになった青年が、外国籍の人への差別・貧困・障がいのある人への差別や偏見に悩みながらも、対等な関係を築いていく。
ユーモアもあって明るい映画です。

『ザ・ピーナッツバター・ファルコン』

プロレスラーを夢見るダウン症の青年は憧れのレスラー養成学校を目指して養護施設を脱出。

出会った漁師と看護師も一緒に冒険の旅を続ける。

偏見や思い込みを払拭し、本当の自分を見つけるロードムービーです。